

釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

お ん ね な い

月刊 温根内 通信

—— 2026年10月号 No.361

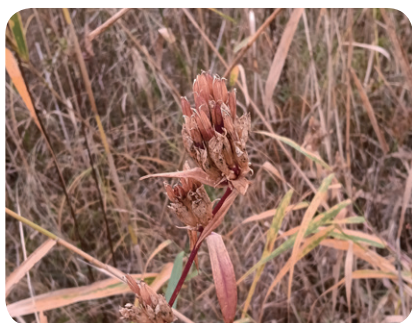
10月15日(木) 発行 ——



ニホンザリガニ、見つけたよ！

釧路湿原や湿原に流れ込む小川には、日本固有種のニホンザリガニが生息しています。子どもたちが夢中でその生息地を調べていると、ザリガニ以外にも色々な生き物が見つかります。ここで見つかる魚類や昆虫類は、冬でも凍らない湧き水で餌を獲るタンチョウの貴重な食糧源。普段は目につかない生きものたちが、豊かな釧路湿原を支えています。

☆☆☆ 温根内木道周辺で見られた自然（9/15～10/14） ☆☆☆



【エゾリンドウの実】

リンドウ科 蝦夷竜胆

前号でも紹介した花は無事に実をつけていました。花が終わると突然存在感がなくなります。



【ホソバアカバナの実】

アカバナ科 細葉赤花

果皮が裂け、中に綿毛をまとった種子が整然と並んでいます。小さな花からはなかなか想像できません。



【ハンゴンソウの実】

キク科 反魂草

これも風に乗って種子を散布するタイプの植物です。キク科の種子に見られる綿毛は「冠毛」と呼びます。



【ヌメリスギタケモドキ】

モエギタケ科 滑杉茸擬

倒木や枯れ木には様々なキノコが見られます。本種はヤナギなどの広葉樹によく見つかります。



【マユタテアカネ】 トンボ科

10月になるとトンボの姿も少なくなりました。最後まで見られているのは本種やキトンボのような、いわゆる「赤とんぼ」たちです。



【エゾシカ】

シカ科 蝦夷鹿

立派な角を持ったオスは威風堂々としています。車の運転には最も注意したい時期です。

○表紙の写真 上：エゾホトケドジョウ、トミヨ、エソトミヨ 下：ニホンザリガニ

☆☆☆ 温根内木道周辺で見られた野鳥（9/15～10/14）☆☆☆

季節は秋に移り、鳥たちにとっては渡りの時期になりました。上空ではオオハクチョウやマガン、ヒシクイといったカモ類の鳴き声が時折聞こえてきます。一方、今は湿原の茂みで見え隠れしているアオジやウグイスは、もうじき南に渡って行ってしまうでしょう。ビジターセンターでは双眼鏡を無料でレンタルできますので、気軽にお声がけください。



【ウグイス】 夏鳥

ウグイス科 鶯

「ジャッ」という濁った声で鳴きます。姿も現すことも少なく、正体を知っている人は稀と思われます。



【ノスリ】 留鳥

タカ科 鷲

トビよりも一回り小さく、扇形の尾羽も他のタカ科と見分けるポイント。丘陵地の上空を飛んでいました。



【ゴジュウカラ】 留鳥

ゴジュウカラ科 五十雀

留鳥が混群を形成し始めており、そのメンバーの一種。器用に頭を下に向けて木を移動します。

○温根内木道周辺で観察された花・鳥（9/15～10/14）

花（和名は五十音順 * 外来種）	20	セイヨウタンポポ*	40	ヨシ	19	ヒヨドリ
1 アキノウナギツカミ	21	チドリケマン	鳥（和名は日本鳥類目録第8版の順）		20	ウグイス
2 イヌタデ	22	ツリフネソウ	1	ヒシクイ	21	エナガ
3 イヌホオズキ	23	トウヌマゼリ	2	マガン	22	コヨシキリ
4 ウシハコベ	24	ナガバノウナギツカミ	3	オオハクチョウ	23	ゴジュウカラ
5 ウメバチソウ	25	ナガボノシロワレモコウ	4	クイナ	24	キバシリ
6 エゾオオヤマハコベ	26	ナギナタコウジュ	5	タンチョウ	25	マミチャジナイ
7 エゾゴマナ	27	ハナタデ	6	トビ	26	ツグミ
8 エソトリカブト	28	ハンゴンソウ	7	オジロワシ	27	キビタキ
9 エソノコギリソウ	29	ヒメムカシヨモギ*	8	ノスリ	28	ノビタキ
10 エゾヤマアザミ	30	ヒヨドリバナ	9	コゲラ	29	キセキレイ
11 エゾリンドウ	31	ヘラバヒメジョオン*	10	アカゲラ	30	ビンズイ
12 オオバセンキュウ	32	ホソバアカバナ	11	クマゲラ	31	タヒバリ
13 オオヨモギ	33	ミソガワソウ	12	モズ	32	ベニマシコ
14 コウゾリナ	34	ミゾソバ	13	カケス	33	カワラヒワ
15 コガネギク	35	ミツバベンケイソウ	14	ハシボソガラス	34	アオジ
16 コハコベ	36	ミミコウモリ	15	ハシブトガラス	35	オオジュリン
17 サラシナショウマ	37	ヤナギタウコギ	16	ヒガラ		
18 サワギキョウ	38	ヤナギタンポポ	17	ハシブトガラ		
19 シロツメクサ*	39	ヤマハギ	18	シジュウカラ		

※温根内木道周辺の植物を折ったり持ち帰ったりしないようお願いします。また、木道から降りて写真を撮ることはおやめください。皆様が気持ちよく散策・観察できるようご理解とご協力をお願いします。

☆☆☆☆ 自然ふれあい行事を開催しました ☆☆☆☆

○「絶滅危惧種ニホンザリガニを探せ！」

10月4日 参加者：15名 講師：照井滋晴（NPO 法人 PEG 代表）

講師の照井氏からまず北海道に生息するザリガニについて詳しく解説してもらった後、待ちきれない子どもたちも張り切ってザリガニ探しに向かいました。最初に向かった鶴居軌道跡の沢では網の使い方を教わってから捕獲に挑みました。「何か入ってる！」という歓声があがり、網の中を見ると入っていたのはエソホトケドジョウやエソトミヨ。これらも絶滅危惧種に指定されている希少な魚類。しかし肝心のニホンザリガニは見つからず、次の地点へ。しばらく網



で探っていると、「ザリガニがいます！」との声があがり、体長 3cm ほどのザリガニが網にかかっていた。照井氏から教わったポイントとなる体の部位から、無事ニホンザリガニと確認されました。そしてここで見つかるようになった後は大人も子どもも夢中になって探し、次々とニホンザリガニが見つかりました。大きいもので体長 5cm の立派なオスも見つかり、確認数も過去最高となる 10 尾と、大満足の観察会となりました。



○「秋の紅葉を見に行こう」

10月11日 参加者：15名 講師：大山重治（森林インストラクター）

木々の葉が色づく季節に、樹木を中心に観察しながら散策しました。講師の大山氏から、まず紅葉の仕組みを教わり、今年は木々の紅葉の進みがやや遅いことにも触れてもらいました。また、持参してくれたホオノキの枝を用いて、冬芽の見分け方についても教えていただきました。鶴居軌道跡を歩いて行くと、



黄色く色づいたキハダ、イタヤカエデ、そして特徴的な実をつけたサワシバの木を観察しました。そのサワシバは木によって葉がほとんどないものもあり、これはマイマイガの幼虫にやられたものであることも教えていただきました。風によって種子を散布する樹種、動物や鳥に食べてもらって種子を散布する樹種など、子孫の残し方にそれぞれ工夫があることも教えてもらい、参加者もよく理解できた様子でした。



☆☆☆☆イベントのご案内（11月）事前の申し込みが必要です☆☆☆☆

申し込みは開催日の1か月前から受け付けています

○温根内ビジターセンター ⇒お申し込み☎0154-65-2323

♪初冬の植物を見に行こう

〔日時〕11月15日（日）10:00～12:00

〔定員〕15名（小学生は保護者同伴）〔参加費〕無料〔場所〕温根内ビジターセンター
これから厳しい冬を迎える湿原。植物たちはどのような戦略で冬を乗り切るのでしょうか。

♪クリスマスリースを作ろう

〔日時〕11月29日（日）13:00～15:00

〔定員〕15名（小学生は保護者同伴）〔参加費〕¥500（材料費）

〔場所〕温根内ビジターセンター

もうすぐクリスマス。自然の素材を使ってオリジナルリースを作成しましょう。

○塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）⇒お申し込み☎015-487-3003

♪クリスマスリースを作ろう

〔日時〕11月28日（土）13:00～15:00

〔定員〕15名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕500円（材料費）

〔場所〕塘路湖エコミュージアムセンター

～開館時間が変わります～

11月1日より当センターの開館時間が9時～16時までとなります。24時間開放していたトイレも16時の閉館をもってご使用できなくなりますのでご注意ください。

日の入り時刻も早まっていますので、時間に余裕をもって散策をお楽しみください。

月刊 温根内通信 No.361

発行：釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

〒085-1145 北海道阿寒郡鶴居村字温根内

Tel: 0154-65-2323 Fax: 0154-65-2185

E-mail: ovc@kushiro-shitsugen-np.jp

ホームページ: <http://www.kushiro-shitsugen-np.jp/>

Facebook: 温根内ビジターセンター フェイスブック

開館時間: 9:00～17:00（11月～3月は16:00まで）

休館日: 毎週火曜日（12/29～1/3は休館）入館無料